瓦版

恐竜博2016特別号

国立科学博物館にて 恐竜博2016 開催

開会式のテープカット

オリジナルグッズも充実

1877年設立の「科博」

現在、国立科学博物館で開催中の「恐竜博二〇一六」。三月八日の開幕に先立ち三月七日にプレス内覧会が実施された。当日は生命進化史研究グループ長（取材当時）の真鍋真さんによる会場内の解説や海外の恐竜博士による化石の説明、また開会式が行われ、公式サポーターとして武井壮さんのトークやテープカットが行われた。

本展では、世界各地から集まった新発見の恐竜、そして最新の研究結果が紹介されている。長年謎に包まれていたスピノサウルスの全身復元骨格が日本初公開され、赤ちゃん恐竜の化石が初来日した。また、化石クリーニングの様子が実演されるなど内容は盛りだくさん。

真鍋さんは、高校生に向けて「私は大学生になってから恐竜に興味を持った。自分が何が好きで何に興味があるのかはやってみないとわからない。自分の足で様々なところに足を運んで私極的に体験をして、何をやりたいのかを発見してほしい。例えそれが就職につながらないことだとしても、好きなことに取り組むことが大切」とメッセージを送った。新しい発見を求めて、あなたも「恐竜博二〇一六」に訪れてみてはどうだろうか。

赤ちゃん恐竜 突起でコミュニケーション

1歳にも満たない赤ちゃんの化石

全ての恐竜は最初は赤ちゃんとして誕生する。子供が成長する過程は魅力的な研究テーマであるが発見や解明が難しいとされている。しかし今までで最も小さいパラサウロロフスの個体が発見された。

大人のパラサウロロフスには長い突起があり、そこから音を出したといわれている。目視で確認できなくても互いの存在を知らせることができたのだろう。一方幼体の突起は短く目立たないので大人が出す音より高音が出る。その音で親子の意志疎通を図っていたのだろうと想像される。この発見は高校生によるもので、誰でも科学に貢献できるということを知らしめた化石となった。（井門）

カナダから博士が来日 化石クリーニングの様子

化石が現れる瞬間

第二会場では「化石クリーニング」が期間限定で実演される。採取した岩石から化石を取り出す作業を目の前で見ることができるのだ。ラボ内で実演しているのは、カナダ出身でアルバータ大学のクライヴ・コイ氏（写真中央）。三〇年以上クリーニングに携わり、世界で五本の指に入る人だという。運が良ければ歴史的瞬間に立ち会えるかも？

編集　編集部一同

レイアウトデザイン　佐藤

「恐竜博2016」は2016年3月8日(火)から6月12日(日)まで開催中！！！

スピノサウルス 七〇年の時を越えて

自亜紀中頃（約一億年前）のアフリカ太陸にスピノサウルスという、ティラノサウルスをも超える大型肉食恐竜が存在した。その背中にある帆のような巨大な神経棘より「トゲのあるトカゲ」と呼ばれたことが名の由来である。

スピノサウルスの化石は一九一二年にエジプトで発見されたが、第二次世界大戦中の一九四四年に焼失してしまう。そのおよそ七〇年後、二〇〇八年に新たな追加標本がモロッコで見つかり、二〇一四年には驚きの仮説が発表された。今まで恐竜は空へ飛び立った種は発見されるも、水中にはいなかったとされていた。しかし化石や様々なデータをもとに復元された全身骨格から「スピノサウルスは水中に進出していた」というものだ。理由としてはスピノサウルスの前肢は普通の肉食恐竜より長く、その肢で四足歩行していたこと。また大腿骨が、水生動物に多く見られる中空度の低さであること。ミラノ市立自然史博物館のクリスティアーノ・ダル・サッソ博士は以上から姿勢を低くして水の中で生活していた可能性が高まった。そして口の先はワニの鼻先の構造に似ており、水圧や水流を感知して濁った水の中で魚を探すときに役立ったといわれている。現代の技術はもちろんだが、人類の恐竜への好奇心が研究の発展へと導く。スピノサウルスの研究に関わった人類は進化の中の例外といえる存在だ。

ダル・サッソ博士とツーショット

恐竜で福島を応援 チンタオサウルスの修復

東日本大震災から五年が経過した今、失われた恐竜標本を修復するプロジェクトが始まっている。修復する恐竜標本は頭部が落下して大きな被害を受けた「チンタオサウルス」。福島第一原発から三〇キロ圏内に位置する福島県広野町の町役場に展示されていた。

ものだ。恐竜をきっかけに被災地を忘れないでほしいという思いから、クラウドファンディングという、インターネットで資金援助を募る方法が実施された。

修復されたチンタオサウルスは「恐竜博二〇一六」の会場でお披露目されている。東京、北九州、大阪を巡って二〇一七年以降に広野町に里帰りする予定だ。

恐竜の繁栄の秘密 標本による羽毛の発見

鳥のような羽毛を持つ恐竜

二〇一四年にシベリアの新種羽毛恐竜クリンダドロメウスが報告された。恐竜博では羽毛の痕跡の残る化石標本（複製）や全身復元骨格などを日本で初公開する。

クリンダドロメウスは後ろ肢や尾にウロコ、頭や胴には羽毛、と変わった特徴を持つ。鳥類には羽毛がないと考えられていた時期が長かったとされるクリンダドロメウスは進化せず、羽毛は進化した鳥類とは進化した恐竜の系統である。そして今回の発見で、「羽毛は恐竜が鳥類になり、他の爬虫類よりも長く活動できたことが「恐竜は最初から羽毛を持っていた」という理由の新たな仮説が誕生。一つかもしれない。（青山）

新発見！歯に注目！ ベジタリアン恐竜

学名の由来は「チリのトカゲ」

二〇〇四年に南米のチリで発見された「チレサウルス」。七歳の少年がきっかけとなり見つけたこの恐竜は進化の中の例外といえる存在だ。

ティラノサウルスで有名な獣脚類は肉食であるのが普通だ。それに伴って通常の獣脚類の歯はナイフ状にとがっている。しかしこのチレサウルスは獣脚類でありながら草食に適応していた。まるで草食恐竜のような、植物をすりつぶすひし形の歯を持っていたのだ。肉食の祖先をもちながらも環境に応じて変化したチレサウルス。恐竜の進化はまだまだ未知の領域である。

神奈川県立大船高校
新聞委員会
http://www.ofuna-h.pen-kanagawa.ed.jp/school-life/arts-club.html#newspaper

編集　編集部一同

レイアウトデザイン　井門